

鹿本農業高等学校 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標						
時代の潮流に呼応した農業教育の実践校として、校訓「勤労・愛育・創造」の精神を基調に、確かな倫理観を持ち、協調性があり、心豊かで健やかな人材の育成を目指す。						
2 本年度の重点目標						
1 安全で安心な魅力ある学校づくり 2 学習習慣の確立・わかる授業の実践と学力の向上 3 キャリア教育の充実 4 基本的生活習慣の確立 5 生徒指導の徹底と生徒支援体制の確立 6 人権教育の推進 7 生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ及び部活動の活性化 教育スローガン 考える力、行動する力、発信する力の育成						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	地域社会の期待と信頼を高める学校づくり。	教育目標及び重点目標の周知及び、特色ある教育活動の実践及び情報発信	・農業高校の役割と本校独自の教育活動をわかりやすく発信する。 ・本校のスクールミッション、教育目標等を保護者、地域、職員に認知させ、全学科合わせた募集定員の充足率50%以上を目標とする。 ・台湾高雄市立六龜高級中学校との交流を促進する。	・計画的な中学校訪問の実施、地域連携、体験入学の実施。台湾との交流等、魅力ある学習内容をHP等での発信し、効果的なPR方法や農業高校ならではの魅力発信を行い、広報充実を図り、生徒募集に繋げる。 ・7月に姉妹校締結協定書を締結し、交流活動等を地域に発信する。	B	・学校評価アンケート設問の「情報を発信し、開かれた学校づくりに取り組んでいる。」に対し、97%の保護者が「そう思う、大体そう思う」と回答し、教職員は88%であった。年間HP閲覧数は25万2千件を超え特色ある教育活動や学校行事を継続して発信できた。 ・7月には中学校訪問を実施した。山鹿市高校合同進学説明会への参加、体験入学2回実施に加え11月に公開授業週間を実施した。また、7月には台湾高雄市の高級中学との姉妹校協定を締結し、交流活動や取組を新聞等で紹介されるなど情報発信に努めた。結果、前期選抜の志願者は、昨年度の150%で、令和5年度程度となった。台湾交流等新たな取組も様々な方法で周知を行ってきたが、生徒募集への大きな効果にはなかなか繋がっていない。新たな学習活動、充実した学校行事等の実践を継続して発信していく。

	働き方改革の実践	ワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整え、時間外勤務時間を縮減し、長時間勤務の解消	・全教職員が働き方改革の必要性を理解し、月の時間外勤務時間の平均が上限の45時間以内、年の時間外勤務の上限の時間360時間以内の全職員実現を実現する。 ・健康で働きやすい職場環境を整備する。	・外部専門機関の人材を活用する。 ・学校閉庁日、定時退勤日、部活動休養日等を設定する。 ・教職員1人当たり年次有給休暇の平均取得日10日以上を推奨。	B	・特別支援教育支援員、SC、SSW、ICT支援員、キャリア・ター等を積極的に活用した。 ・昨年同様、学校閉庁日5日設定し、生徒保護者へ周知し実施した。部活動休養日は原則水曜日に設定、水曜日に会議日を固定、定時退勤日とした。 ・総時間外時数は12月末現在、月平均45h/月以上の職員数が5人（12%）、月の時間外勤務時間の平均が23：30で上限の45時間以内、80h/月以上延べ6人（29人減）で大幅に減少し業務の効率化が見られた。 ・1月末で、本校職員の66%が年間10日以上年次有給休暇を取得し、取得日数の平均は、11.9日であった。
	業務改善への取組	子供たちと向き合う時間を確保し、効率的・組織的な教育活動の実践	・「すぐーる」やタブレットの活用を促進した校務分掌業務及び会議や文書作成時間の業務を縮減し、教職員が本来の業務に一層専念できる環境整備を進めて、業務を効率化する。	・DXクラウドを活用した文書管理の統一化の徹底を行う。ネットワークの活用により情報の共有を図り、会議、資料作成等の業務簡素化。 ・各種会議日を統一曜日時間に固定による業務の組織化を図る。	A	・情報セキュリティに関する職員研修を実施。教務支援システム・校務支援システム・タブレット端末の活用によるデータの共有化を進め、業務効率化に繋げた。全職員がクロームブックを用いた授業研究等に取り組むことができた。各種アンケートの実施や朝会、各種会議でのペーパーレス化を進めた。RPAの導入による文書事務の簡素化を行い職員への運用徹底ができた。 ・各種会議日を水曜日の定時に固定したことによる計画的な業務運営に繋がった。
学力向上	基礎学力の向上	学習意欲の喚起と家庭学習の定着	・朝自習と朝読書の実施により、基礎学習に対する満足度を80%以上にする。	・毎日の朝学習と朝読書ならびに各教科で課題の提出と添削指導、考査前の学習会などを実施することで家庭学習の定着を図る。	B	・生徒の基礎学習に対する満足度は測定できなかったが、朝学習や考査前学習会への取り組みは成果があった。
	特別支援教育の視点に立った授業改善	学び直し、既習事項の定着	・学業不適応による転学者・中途退学者数を0人にする。	・生徒支援部および特別支援教育支援員と連携して、基礎学力および学習意欲に対して継続した向上を図る。	B	・各学期の研究授業でもICT機器を活用し、工夫した授業が行われた。学業不振による転学、中途退学者は5名となった。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育に基づく教育活動の実践	社会の変化に対応する進路教育活動の推進と組織的なキャリア教育	・外部講師による講話の実施と進路説明会への参加を通して、企業理解や進路	・外部講師による講話や進路ガイダンス等への参加等だけでなく、日頃の農業学習等により職業観や	A	・効果的な外部講師による講話の実施と進路ガイダンス等への参加等だけでなく、先進地視察、インターンシップ、校外実

		の推進	<p>理解を効果的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業からの生の声を収集し、体験することで進路情報の細部を理解し、生徒自身の適した職業選択の精度を高める。 	<p>勤労観を高め、先進地視察等により社会を知り、インターシップや校外実習で実践力を身に付けさせ、進路選択に繋げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人事担当者と直接話をするだけでなく、経営者の生の声も聴き、企業の実態把握を行い、現状を生徒や教職員にも伝えて、進路選択のミスマッチを防いでいく。 		<p>習で社会を知り、それに適応する実践力を培い、進路理解や進路選択に繋げさせることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業からの生の声を生徒及び教師も収集することで、進路情報の細部や具体的内容を理解することができ、生徒自身の適した職業選択の精度を高めるのに役立てることができた。
	人権尊重の進路指導教育	<p>生徒一人ひとりの潜在能力を引き出すことでよりよい職業観、勤労観、向学心を確立させて幅広い進路を選択決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年生の個人面談を適宜実施し、進路希望などの自己を見つめる機会とし、進路選択のミスマッチを防止する。 ・進学希望者対象の学習会を充実させ、進学先において必要な学びの基礎を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談はキャリアサポーター、進路指導部職員及び担任で実施し、三者面談は3年時には2回実施する。 ・応募前職場見学へ積極的に参加させる。 ・進学希望者対象の学習会は、特に小論文と討論会、発表会を充実させ、自らの考えをまとめ表現する力を養成する。 ・手帳保持者へはハローワークを招いた説明会を実施し、応募前の見極め実習を充実させて進路選択のミスマッチを防いでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を1学期と3学期の2回実施することで、2、3年生の進路希望を直接把握できた。また、三者面談は3年時7月だけでなく、適宜実施することで、生徒・保護者・担任の共通理解を得ることができた。 ・応募前職場見学には昨年度に増して積極的に参加させることができた。 ・進学希望者対象の学習会は、特に小論文と討論会、発表会を取り入れ、自らの考えをまとめ表現する力を養成することができた。 ・手帳保持者への指導の流れを令和3年度に作成しものに加えて、ハローワークを招いた説明会を実施したり、開示等の意思確認書等を提出させたりして進路選択のミスマッチを防ぐことに努めた。
生徒指導	生活指導の徹底	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら率先して挨拶ができる生徒の育成 ・時間を守り遅刻・欠席をさせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校指導において声掛けや遅刻チェックを行いながら気になる生徒と面談を行い、昨年度の遅刻数の1割減を達成する。 	B	<p>進路部の協力を得て、毎朝の登校指導を実施しているが、2学期以降、遅刻する生徒が固定化しており中々改善ができなかった。朝の挨拶は良く返してくれた。</p>
		制服の正しい着こなしの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を図り正しい着こなしを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と教職員の共通認識のもと、日常から正しい制服の着こなしについて認識させる。 	B	<p>生徒の自己評価結果では85%が制服を正しく着こなしていると評価した。昨年度、頭髪指導に関しては規定の見直しを行ったが、大きく逸脱した生徒は少ない。</p>
	適応指導の充実	転学、中途退学者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の転学、中途退学者の割合を10%以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前からの生徒情報収集と職員間の共有を図り、外部機関との連携と支援を充実させる。 ・ケース会議等を定期的実施する。 	B	<p>入学後、SC面談により1年生全員の情報収集や支援方法を確認できた。中途退学者は2年生が多かった。今後も保護者と連携し、外部支援も含め、最適な支援を行う必要で</p>

						ある。
	組織的指導の推進	情報を共有し、生徒理解と職員間の共通認識の向上	・全職員で生徒指導に取り組み、職員間による指導差をなくす。	・学年会やいじめ防止対策会議の情報共有を図り、全職員による共通理解を深める体制を構築する。	B	SNSの利用について職員・保護者と生徒の認識の差が大きい。いじめや犯罪につながりかねない事案もあり、正しい利用の仕方の職員研修等も必要である。
人権教育の推進	人権教育の充実	部落差別（同和問題）をはじめ、あらゆる人権問題についての学習やいじめの防止に向けた取り組みを実施し、差別、いじめを許さない態度の育成	・人権教育HR活動や講話、掲示物などを通して、全ての生徒や教職員、保護者があらゆる差別やいじめ問題について自分の事として捉える。	・各学期の人権LHR活動や講話、研修等により、生徒及び職員の人権意識を高める ・保護者向け人権だよりや人権講話の案内を行い、保護者の人権意識を高める。	A	・今年度は75分確保し、グループワークなどを通して、各人権課題について自分事と捉えるよう取り組んだ。各学習後のアンケートでは95%以上の生徒が自分事と捉えていた。 ・「すぐー」やHPなどを活用し、人権学習の状況を発信できた。人権講話については、「すぐー」にて案内を周知したが、保護者の参加はなかった。次年度はPTAと連携して案内していきたい。
いじめの防止等	命を大切に する心を育む指導	生命尊重の意識と自己有用感の向上	・全ての生徒が自他の生命を尊重し、認め合う雰囲気作りを行う。 ・いじめ早期発見と全てのいじめ事案解決に組織的に行き、該当学期中の解消に努める。	・授業のUD化などをとおして、わかりやすい授業を行い、生徒の自己肯定感を高める。 ・学期1回「心のアンケート」調査と、調査当日にいじめ防止対策委員会の実施により早期発見し、組織的に対応する。	A	・生徒支援員が作成した掲示物の活用や生徒支援員のサポートにより、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ・調査当日にいじめ防止対策委員会を実施し、速やかに情報共有できた。次年度は、アンケート以外の早期発見や情報共有について見なおしていきたい。
	他者の心情を理解する人間性を育む	人間関係の構築と学校づくり	・言語環境を整備する。 ・9割以上の生徒が相手を尊重した言動を取れるようになる。	・言語環境に関する情報発信を校内掲示やHPなどを活用し毎月実施する。 ・「心のきずなを深める標語」を全校生徒及び職員で作成し校内掲示など行う。 ・いじめ等の個別の事案に対して生徒指導部や生徒支援部など各部と連携し、対応する。	B	・毎月人権に関するポスターや生徒、職員が作成した「心のきずなを深める標語」の校内掲示、昼休みの放送で校内掲示のアナウンスを行った。 ・いじめ等の個別の事案に対して、生徒指導部や生徒支援部など各部と連携して行ってきたが、全職員への周知が遅れた。次年度は速やかに情報共有をしていきたい。

特別支援教育	特別な支援を要する生徒への適切な対応	組織的な支援計画及び指導計画の作成と確実な支援の実施及び評価	・支援を要する生徒について、中学校からの引き継ぎを活用して支援計画及び指導計画を作成し、切れ目のない支援を行う。 ・支援を要する生徒が安全で安心して学べるよう、特別支援教育支援員や外部専門機関と連携し合理的配慮を行う、。	・SC、SSW等外部機関と連携し、特別な支援を要する生徒にケース会議等を実施し、確実な支援を行う。 ・生徒支援部会を毎週開催し、支援の成果と課題を確認・共有し、指導計画の修正を適宜行い、関係職員にて評価・再検討を行う。 ・様々な特性を抱える生徒が主体的に授業に取り組めるよう授業のUD化・授業支援を行う。	A	組織的な支援計画及び指導計画の作成において計画通り実施することができた。外部との連携は今年度も、SC（60時間）、SSWとの連携（5件）、ケース会議の実施（22回）など多くの対応をすることができた。今年度は特別支援教育支援員が配置されたことにより、困り感を抱える生徒の授業支援、環境整備、職員への助言をいただき、より個に応じた支援ができたと考えている。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進と広報活動の推進	学校運営協議会で本校の魅力化特色作り、発信等に向けた議論が行われて、共通理解と協力体制の構築により、教育活動の活性化に繋げる。	・本校の魅力化や特色作り、活動内容の発信等に向けた議論が行われ、地域における教育資源の活用と交流活動を推進し教育活動の活性化に繋げる。 ・幼、小、中学校との交流や学習支援活動、生産物販売をととした地域との交流活動を推進する。	・各委員から幅広く意見を伺い、学校運営に活かし、学校課題の解決についての評価を行う。 ・学習支援活動、学校行事などの各種イベント等の地域交流 ・地域貢献活動を積極的に行う。	B	・総合型として、年間2回の会の開催、公開授業、文化祭等の各種行事へご案内し、本校の教育活動を参観いただいた。 ・今年度の本校の課題解決に向けご意見と評価をいただき、次年度の特色ある教育活動や地域連携について具体的目標の設定に繋げていく。
		広報活動の充実	・HP、SNSを活用した広報活動の充実を図り、特色ある学習活動の発信を行う。	・本校の公式Instagramで写真や動画（ストーリーズ）をアップし、発信数を増やし、フォロワー数400以上を達成する。 ・HPを活用し、各種行事、各学科の学習状況を更新し情報発信を強化、年間閲覧目標数12万回以上を達成する。	A	Instagram運用規定を見直しメンバーに発信できるようにした。他校と比較するとまだ少ないがフォロワー数は500名近くに増えた。数年ぶりにHP講習会を実施し参加者による頻回の発信があった。年間閲覧数は5月からの8か月で22万回に昇った。更新回数の多い学科は学びの内容がよく伝わり生徒募集に繋がってきていると言える。
環境教育	環境問題への意識向上及び校内美化の推進	学校版環境ISOの取組みを通した環境維持・保全に寄与する態度の育成	・ゴミ分別の徹底とリサイクルの推進。 ・グリーンカーテンに取り組み節電や地球温暖化への意識を高める。 ・電気使用量を削減する。	・ペットボトル分別の強化（ボトル・キャップ・ラベル）のための啓発ポスターの100%掲示。 ・初夏から秋にかけて保健室前にグリーンカーテンを設置・管理しその効果を発信する。 ・節電に努め、電気使用量を前年度比1%減にする。	B	・ペットボトルの分別強化に向けて、保健だよりやクラス掲示物を行い、全クラス平均分別率は80%以上を継続できている。 ・6月からグリーンカーテンを設置したが、8月の台風接近に伴い急遽撤去したため効果を実感することはできなかったが保健委員の生徒の意識改革にはつながった。 ・猛暑により夏季使用量が増加し1%減はできなかった。

保健管理	健康教育・保健教育の推進	心身の健康に関する生徒自身の管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断事後の措置を徹底する。 ・生徒支援部・SC・SSWと連携する。 ・外部専門家による講演会を実施する。 ・生徒保健委員会活動を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導、生徒保健委員会による啓蒙活動を実施し、学校歯科医との連携等を行い歯科・視力共に受診率50%以上を実現する。 ・保健室来室生徒の状況を見極め、生徒支援部と連携し、必要に応じてSC・SSW等に繋げる。 ・性教育講演会、薬物乱用防止教育講演会に専門家を招聘し、正しい知識を身に付け実践できる力を高める。 ・他校の保健委員と交流し本校と他校の健康課題を比較・検討し、課題解決に向けて協同した取組を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・視力の対象生徒へは個別指導を継続し受診率28.5%、歯科では生徒保健委員による保健指導と歯科衛生士によるブラッシング指導を実施したが、受診率42.8%にとどまった。 ・生徒支援部と連携を行い、現時点でのSC利用者は延べ68人。今年度は保護者の利用が1人と少なかったため、次年度は「すぐる」等を通して周知を行っていきたい。 ・産婦人科看護部長、警察官による講演会を実施した。生徒の感想からも今後の人生に活かせる正しい知識を得られる貴重な学びとなった。 ・オンライン会議を行い各校の取り組みを評価し合うことができた。
専門教育（農業）	農業教育の充実	魅力ある農業教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業や新たな生産技術や商品開発の研究を行う ・地域交流学习の実践と発信力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタースステムの利用や地元産農産物の利用の推進 ・地域の魅力を学び発信できる能力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・桑の葉パンの開発 ・ロボットアイデア甲子園熊本大会特別審査員賞1名。 ・幼稚園、小中学校との地域交流学习ができた。
	地域を担う人材育成の充実	就農者及び地域産業を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営者及び地域産業と連携しながら、地域に根ざした教育活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や地域資源を教育活動に活用しながら地域理解や産業を知る機会とする 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の現場実習・インターンシップを実施や就農者研修に参加し、地域を担う人材育成に貢献することができている。
	学校農業クラブ、学校家庭クラブの活性化	活動の充実、R7年農ク年次大会の大会成功に向けた準備	<ul style="list-style-type: none"> ・大会での成績向上並びにクラブ員としての意識を高める ・農ク年次大会の実施要項や役割分担表の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的かつ主体的に活動できる指導体制を整え、クラブ組織を強化する ・農ク年次大会検討会の定期開催と生徒と職員の意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校農業クラブ活動での農業鑑定競技では、3人が全国大会に出場し2名が優秀賞を受賞した。 ・フラワーアレンジメント競技会県大会最優秀賞と優秀賞を受賞、全国産業教育フェア栃木大会のフラワーコンテストに出場した。 ・熊本県家庭クラブ連盟研究発表大会で最優秀賞を受賞した。

4 学校関係者評価

○生徒募集や働き方改革等の取組、生徒たちの頑張りなどよく頑張っているので、評価については上げてよい部分が多々あるのではないかと、よく達成されている。

○前期選抜出願者増加の原因分析を行い、次年度の入学者募集の動きを抑えてもらいたい。

○本地域の特産であるスイカも栽培されており、J Aとの交流や農業研修を計画される場合は積極的につなぎのお手伝いをしたい。また地域の人材育成連携にも協力していきたい。

○One Team事業の、稲の品種「穂増」の活用について、今回の栽培の取組が生徒たちに何か還元できるようにならないか。

○本校出身のそれぞれ課題を持つ生徒に対し丁寧な対応をいただきとてもありがたい。生徒達には様々なことにチャレンジをして欲しい、子どもたちに目標を持たせることが大事である。

○HPでも拝見したが、農業クラブ等生徒たちは頑張っている印象を受ける。発表の場を与えご指導いただいた先生方のおかげではないかと思う。山鹿灯籠踊りの取組も地域としてありがたい。

○手帳を持っている生徒が多いことにびっくりしている。しかし、鹿本農高で学んだから就職までたどり着けたのではないか。

○業務改善の取組には改善の余地があると思う、鹿本農高で職員も働いてよかったと思える学校になることが、生徒の満足感につながると考える。

○図書館の利用が減っているが、本の良さ、紙の力や図書館の良さを知ってほしい。

○台湾友好祭に郷土芸能伝承部の出演に感謝している。

○学校評価アンケートの結果について、領域ごとに過去5年間程度の推移を見て経年変化を検証してみたらどうか。

○台湾交流や2年後の台湾修学旅行は、前期選抜出願者増加の関係はあるのではと感じているので、さらに交流を進めてもらいたい。

5 総合評価

○昨年度から保護者用学校評価アンケート実施は、より回答しやすく保護者の方の負担とならないよう、QRコードを付けたプリント配布と、「すぐる」にて「forms」を用いて実施し、回答率は昨年から25%アップし、83%となり、スマートフォン等での回答が浸透してきたと感じる。

各設問に対する「あてはまる」「よくあてはまる」の評価平均は、生徒81.5%、保護者91.9%で回答し、本校の取組みについて、理解、ご協力をいただいた結果と判断する。

7月に新学校パソコンを持参し中学校訪問の実施し、地域の高校合同進学説明会参加、体験入学2回（7月・10月）実施に加え11月に公開授業週間を計画実施した。さらにHPの日々更新による年間を通しての学習活動の発信等を行い、閲覧数は昨年度を上回る25万2千件以上となり、定員充足率は昨年度を上回ることができたが、50%に達することはできていない。次年度は、さらに本校の教育活動を地域の方々に興味深く見ていただけるように、台湾との交流等、本校独自の取組を生徒の手による情報発信していけるよう検討していく。

○学校評価アンケートにおいて「授業や学校行事に意欲的に参加し、自己目標の達成のため努力している」と回答した生徒87%、「朝自習と朝読書に取り組み、基礎学力の定着を図っている」と回答した生徒74%、保護者86%となり、昨年より若干減少している。学習指導面ではタブレットを活用した授業展開等で各学期の研究授業でもICT機器を活用し、工夫した授業を全職員で取り組んだ。しかし、十分な基礎学力の定着、向上に至っていないので、各教科での授業研究と、キャリア教育を意識した意欲的に学び自己肯定感が養い、進路実現につなげていくためにも「わかる授業」を実践していきたい。

○生徒指導部、生徒支援部・人権教育主任が連携し、生徒理解研修、いじめ防止・生徒理解に取り組んだ。学期毎の全生徒対象「心のアンケート」実施、情報の集約を行い実施当日にいじめ防止対策委員会を開き、早期対応、早期解決に向け組織的に対応した。また、情報の共有化と生徒理解に繋げるため、人権教育委員会・生徒支援部会を定期的に開催し、生徒の状況把握と問題解決に取り組んだ。「心のきずなを深める標語」を全生徒、全職員から応募し、校内掲示を昨年から継続して実施し、言語環境の整備に努めた。その結果「人権意識を高め、差別やいじめを許さない態度を身に付けようとしている」と回答した生徒95%、保護者92%で、ともにアップし、自他の生命を尊重し認め合う姿勢、いじめや差別を許さない心の育成に繋げることができた。

○1年生のSC面談（60時間、1年生は全員面談）、SSW申請、SSWや外部機関を交えたケース会議（延べ22回）の実施など、継続的に支援を要する個々のケースに対し外部機関の協力を得ながら、生徒支援部、学年部などとチームでの支援を行うことで、校内支援体制の確立、就労支援に繋げることができた。さらに特別支援教育支援員の活用による学習支援を行うことで、学習に対する困り感を抱えた生徒の授業支援、環境整備に対する職員への助言でより個に応じた支援ができた。

○進路状況については、4年制大学1名、短大1名、熊本県立農業大学校へ2名、専門学校に9名と33%が上級学校へ進学することとなった。就職では、キャリアサポーターの活用による新規企業開拓、効果的な外部講師による講話の実施と進路説明会を計画実施した。このことは生徒の企業理解や進路理解に繋がり、進路相談、面接指導等をおこない、応募前職場見学の積極的な活用を勧め

て、適切な個別指導の結果、学校紹介での内定率100%となり、離職率減少のための取組も実施した。

○専門教育では、「農業に対する理解を深め、専門的な知識や技術を身に付けることができている」と回答した生徒93%で、インターンシップ等の校外学習等の取組や専門教育における外部と連携した学びが特色ある各学科の活動となり、地域へ発信することができた。各学科で、外部講師招へいや専門機関と連携した研究、専門性の向上と将来を見据えた系統的な学習展開に努め、効果を上げることができた。これらの専門教育が農業クラブ活動で上位入賞にも繋がった。さらに、地域小学生を対象とした体験講座など開かれた学校に向けた取組を実施した。

6 次年度への課題・改善方策

○次年度は、改めてスクールミッションや教育目標の周知、理解に向け、「地域社会の期待と信頼を高める学校づくり向け」、教科指導、諸行事の運営を実施し、生徒募集に繋がる新たな具体的な方策を示しながら検討し進めていく。

○学習指導面ではまだまだ基礎学力の向上に至ってない。環境整備も整った中、タブレット等ICT機器を活用した授業展開の研究を行うためにも職員の研修等によるスキルアップを進め「わかる授業」実践のため、教師の指導力向上に努める。支援が必要な生徒等、多様な生徒が入学する中、観点別評価についても引き続き研究を行い、カリキュラムマネジメントの検証と併せて、確かな学力の定着を心がけ実施していき、研究授業週間や公開授業を計画的に設定しながら、教師の指導力向上に努め確かな学力の定着と進路実現に繋げていく。

○昨年度末に「総合的探究の時間」の年間計画を大幅に見直し、探究の見方・考え方を働かせて、地域の魅力を発見、課題を解決していこうとする探究的な学習を通して、他者と協働し、主体的に課題を発見し、解決していくことができる取組となった。

探究活動の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を地域や社会と関わり合いから身に付けさせ、地域や国際社会と自己との関わりから問いを見出し、その解決に向けて率先して行動できる力を身に付けるさせるため、特に台湾との交流を軸に情報を集め、整理、分析し、周囲に発表、表現する力を身に付けさせていく。

○進路指導において、学年ごとの重点目標を明確にした進路指導を行う。進路情報の収集、周知、キャリアサポーターの活用による個別の指導、支援が必要な生徒から、進学希望の生徒まで個別の進路指導で進路選択のミスマッチを防止し、より早期進路目標達成に繋げる。

○特別な支援を要する生徒のニーズへの対応していくためにも、生徒理解研修や個別の支援、指導計画の適宜修正を継続して実施する。新入生を含めた生徒の実態をより早く把握し、全職員で情報を共有し、切れ目のない支援を行うことで課題の早期解決に向け取り組んでいく。

○いじめ防止基本方針を再確認し、いじめが背景と疑われる重大事態にならないように、早期発見、適切な早期対応を組織的にを行い、生徒が安全に安心して学校生活を送れる体制づくりを推進し、人権尊重の精神に基づくいじめのない楽しい学校生活を送れるよう支援していく。

○特色ある専門教育のさらなる充実と日頃の学習成果を地域に発信し、地域産業界との連携強化を行い、地域の産業を担う人材育成に取り組み、生徒の進路実現つなげていく。

○学校運営協議会（総合型）では、スクールミッション、スクールポリシーに添った学校の魅力化と地域の人的、物的資源の活用による教育支援活動の活性化を進め、学校課題の解決に向け取り組み、社会の中で自己実現を図る人間性豊かな職業人育成のための協議を行い、その実現に向けて地域連携と学校の魅力化を強化していく。今後も発生が予想される様々な災害から生徒の命を守るため、危機管理マニュアルを随時検証し、地域と連携した学校防災体制整備を行う。

○人権教育では、相手の立場や心情を理解でき、人権を尊重する豊かな人権感覚を養うために人権LHR、講演会の内容等について随時更新を検討し、充実したものとなるようにする。全職員が生徒一人一人状況を共通理解し、生徒に寄り添い生命の尊重と自己有用感の向上のため互いを認め合う教育を推進し、組織的推進体制の機能強化と研修の充実を図る。

○継続した取組として、本校の特色ある学習内容、新教育課程をわかりやすく周知し、中学生や地域から理解を得られる機会を増やし、本校生徒の生き生きとした学校生活の様子をホームページや情報媒体等を活用し発信する。一人ひとりの生徒が輝ける活動の場を広げ、生徒自らが発信できる力を身に付けさせることで学校の活性化を図る。さらに、個々の進路希望を達成させることで保護者や地域の信頼を得る。そして、本校の魅力として生徒募集に繋げる。